

令和四年度
名寄市立大学
学校推薦型選抜・社会人選抜

小論文問題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル（シャープペンシルの芯はケースから取り出したもの）、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋・箱から取り出したもの）以外、不要な物は置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの間に答えなさい。

私は三九歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された時、国からの支援が何かないかと思い、区役所へ行ってみましたが「四〇歳未満の場合、介護保険が使えないので何もありません」と言われました。

その後、地域包括支援センター等に相談しても、言われることは介護保険の話だけでした。冊子を渡され「このような支援が受けられる」と説明されても、私の場合、まだまだ元気だし、自分に必要なものではないと感じ、反対に気持ちが落ち込んでしまいました。

その時に感じた気持ちは「認知症Ⅱ終わり」でした。「これから人に迷惑をかけてしまう生活をしなければならぬ。人生が終わった」と思ったのです。認知症は「治らない病気」と言われ、「大変な病気になってしまった」と感じ、未来が真っ暗なものになってしまいました。

(中略)

私は診断直後からどこに相談しても、介護保険を勧められました。介護保険を勧める人は、「これからどのようにしたいか」など私の話を聞くこともなく、介護保険サービスの利用を勧めるのが当たり前のように話していました。そこでは、当事者の意見や意思が尊重されていませんでした。

私は自分で動いていたので自分でこれからどうするかを決めることができましたが、大半の当事者は自分の知らない間に物事を決められてしまいます。そして、家族からも行きたくないデイサービスの利用等を勧められるのです。そこで「認知症になって申し訳ない」という気持ちから我慢して、自分の合わなくて使いたくない介護サービスを使うと、さらに気持ちが落ち込み、どんどん症状が進行して「認知症が進行した」となってしまいます。

(中略)

「認知症になると何もわからなくなる」と言われます。つい最近も「認知症の人は何もわからないので幸せですよ、大変なのは家族ですよ」と介護関係の専門職に直接言われました。

いまだに専門職の人ですら、このような認識を持っている人がいるのです。このような失礼なことを言われたら当事者は嫌な思いをします。

なぜ、当事者が嫌な気持ちになると考えないのでしょいか。認知症の症状はあっても、その人自身は何も変わらないのに、専門職が偏見を持っていると感じています。

「認知症バリアフリー」という言葉が使われることがあります。車椅子に乗っている人のバリアに段差があるように、「認知症のバリア」は何かと考えた時、認知症の最大のバリア

は「人」だと感じました。支援者や家族を含めた「人」が障害（バリア）となるのです。当事者はどこにも一人で自由に行くことができません。実際は一人で行ける人も多いのです。でもなぜか家族と一緒にでないダメとなってしまうのです。相談に一人で行ったとしても、「家族の話も聞きたいので連れて来て」と言われてしまいます。

当事者も一人で出かけて自由に過ごせる時間や場所が欲しいのに、「誰かと一緒にじゃないと何かあった時に責任がとれない」と言われ、常に誰かと一緒に行動して欲しいと言われるてしまいます。家族にしても、自分の時間が必要なので、いつも一緒にはいられません。そして、「一人にしておくことが心配。自分の時間が欲しい」ので、認知症の人が家族と離れても安心して過ごせる介護施設へお願いしてしまうのです。

家族は当事者に対して「目が離せなくなった」と言います。それは周りに迷惑をかけてはいけないという思いからくる心配です。当事者の行動を把握できていない自分への不安を解消するために、目が離せないのです。そして、自分が安心するために「助けてあげなければ」「支援につなげてあげなければ」となります。それは、家族だけではなく、支援者も同じで、すべては、「やさしさ」からの行動なのですが、その「やさしさ」が当事者を傷つけています。

支援者の存在や、当事者や家族が参加できる場の存在は大切だと思います。しかし、支援者は「当事者がどのような思いをしているのか」を中心に考えて欲しいと思います。関わる人たちの「認知症だからできない」「認知症だから助けてあげないといけない」「認知症だから家族が大変」などの気持ちが変わらなければ、当事者が安心して過ごせる場所にはなりません。

人は一人では生きていきませんが、だからこそその人の存在は大切にバリアになってはいけません。バリアではなく、一緒に楽しむ仲間になり、私たち当事者と一緒に楽しんで欲しいのです。

『認知症の私から見える社会』丹野智文著 講談社 二〇二二より

問一 筆者はなぜ認知症の最大のバリアは「人」だと感じているのか、二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 「やさしさ」が誰かを傷つけるということについて、あなたの考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で述べなさい。